

# 國學院大學學術情報リポジトリ

出張報告 「35th BIENNIAL ISSR CONFERENCE  
BARCELONA,2019（国際宗教社会学会バルセロナ  
大会）」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/0002000580">https://doi.org/10.57529/0002000580</a>

## 出張報告

### 「35th BIENNIAL ISSR CONFERENCE BARCELONA, 2019 (国際宗教社会学会バルセロナ大会)」

International Society for the Sociology of Religion (ISSR、国際宗教社会学会)は、2年ごとに開催されるヨーロッパを中心とする国際的な宗教社会学の学会である。

第35回目となる今回の大会は、スペインのバルセロナにあるバルセロナ現代文化センターで7月9日から12日まで開催された。大会のテーマはThe Politics of Religion and Spiritualityであった。



写真は、オープニングパネルの様子

本大会では、科研「日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究」(基盤研究B 研究代表者:平藤喜久子)における研究成果の発表を行うため、日本文化研究所の客員教授でもあり、研究分担者でもある櫻井義秀・北海道大学教授が企画するテーマセッション、Well-being and Well-dying in medicalized longevity society: How do our religious culture consider the dignity of life and death?(7月9日14時30~16時)で、Young People's view of death and life in modern Japanと題する発表を行った。本発表は、國學院大學日本文化研究所と「宗教と社会」学会が共同で行った全12回の学生宗教意識調

査の結果をもとにしている。本調査は、毎年4000名程度の学生を対象にして行われたアンケート調査で、宗教への関心の度合いや両親の信仰の有無、また神や靈魂、仏の存在を信じるか、占いを信じるか、さらにさまざまな社会問題への関心の度合いなども調査したものである。そのなかに前世についてどう思うか、死後の世界の存在を信じるか、など、死生観に関わる問いについても調査を行っている。これらの調査をもとにし、学生が死についてどう考えているかを報告し、現代日本の学生の死後観とポップカルチャーとの関係を考察した。とくに注目したのは、前世や生まれ変わりについて信じている割合の高さである。日本に輪廻転生という概念が入ってくるのは、仏教をとおしてのことである。もともとはヴェーダの宗教に起源を有するものである。しかし、若者たちが輪廻転生を知るのは仏教からではない。おそらくポップカルチャーの存在が大きいと思われる。本発表では1980年代にヒットした「幻魔大戦」(小説、マンガ、映画)や『ぼくの地球を守って』(マンガ)に注目し、これらの影響と最近の映画「君の名は」の主題歌「前前世」なども併せて分析を試みた。ポップカルチャーと死生観について幅広く質問も出て、ディスカッションをすることができた。

(平藤喜久子)

右:サグラダファミリア

